

学校名

岡崎市立神内小学校

学校長名

井上勝雄

学力・学習状況調査改善プラン

昨年度の取組とその成果

- 学習規律の徹底
 - 授業のはじまりと終わりのあいさつ
 - 話し方・聞き方のルール
- 家庭学習の充実・家庭学習の手引きの配布
- 分かりやすい授業・ICTの活用・発問や板書の工夫・ノート指導
- 基礎基本の定着
 - 朝学習の実施

本校の課題

- 論理的な考察をする力が低い。今後、授業において、自分の考えをもつ時間を確保したり、考えの交流の場を設定したりすることで、論理的な思考をすることを楽しみながら身につけるような指導の工夫をしていきたい。
- 家庭学習の時間が確保されていなかったり、習慣化されていなかったりする児童がいる。家庭学習の内容の工夫や保護者への啓発などを行い、全ての児童が、家庭学習に主体的に取り組めるようになっていきたい。
- 自己肯定感の低い児童がいる。今後、活躍の場をとらえて、称揚し、自己肯定感が高まるきっかけを作りたい。

・国語Aは、全国の平均正答率をやや下回っているが、その他は、全国の平均正答率を上回っている。これまでの学習の積み重ねにより、確実な学力の定着ができています。

・算数科の「図形」領域は、全国の平均正答率を上回っている設問が多い。この領域は、算数科の課題領域として、指導者が課題意識をもち工夫を重ねながら指導にあたってきた。その成果が表れたと考える。今後、具体物の操作や視覚教材の活用、正確な作図の徹底など、学年に応じた授業の工夫を継続したい。

・全国平均に比べ、無回答率が低い。国語科での読解力を養う学習や目的に応じて書く学習などの指導の積み重ねが表れていると考える。また、図書室を利用した図書の時間を確保していることで、児童は本を読むことを楽しみにしており、そのことも、問題文を最後まで読み切る能力の育成につながっていると考える。

・家庭の協力もあり、テレビの視聴時間やゲーム、スマートフォンをする時間は、適切である。

課題解決に向けた今後の取組

<すぐに取り組む内容>

- ①教育課程の編成の工夫
 - ・朝学習の充実・・・算数を中心に、既習事項の反復練習を行う。
 - ・授業時間数の確保
 - ・基礎的基本的な知識・技能の定着・・・定期的に小テストを実施し、児童のつまづきをきめ細かく把握し、個に応じた支援を行う。

<中・長期的に取り組む内容>

- ①授業改善・授業の充実
 - ・「岡山型学習指導スタンダード」の積極的活用を図る。
 - ・授業公開を中心に捉えた校内研修の実施・・・全学年、国語科・算数科の授業公開を行い、授業改善を図る。
 - ・県の「学習到達度確認テスト」の活用・・・結果を分析し、授業に生かす。
 - ・デジタル教科書の活用・・・研修会への積極的参加。
- ②家庭学習の取組の共有化
 - ・家庭学習の手引きの見直し・・・家庭学習の内容の見直しをし、次年度に生かす。「家庭学習のスタンダード」を活用する。
 - ・自主学習への取組(宿題内容の見直し)・・・望ましい自主学習の内容等を指導したり、良い例を紹介したりするなど、取組を活性化させる。
 - ・「ノーテレビデー・ノーゲームデー」の継続・実施

小中連携

- ・小中連絡会の実施。
- ・授業参観。
- ・小学校卒業時の休業中課題の連携。
- ・夏季休業中の中学校ブロックでの全職員参加の情報交換。
- ・中学校主催地区懇談会への参加。
- ・「ノーテレビデー・ノーゲームデー」の合同実施。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

- ・保護者の協力を得て、家庭学習の習慣の確立を図る。
- ・「かさおかホリデーチャレンジ」「放課後学習」の実施・継続。

具体的目標

何を	どこまで	いつまでに	どのような方法で	達成状況(12月末現在)		達成状況(2月末現在)		次年度への改善点
				説明及び課題	達成度	説明及び課題	達成度	
・国語科・算数科の全国平均正答率より低い設問	全国平均以上	今年度末	国語科、算数科を中心に、「わかる・できる」喜びを実感する授業作り 朝の学習の充実 家庭との連携を密にした家庭学習の充実					
家庭学習の充実	時間の確保と習慣化の定着	今年度末	家庭学習の手引きの配布 保護者への啓発 内容の工夫					

※ 達成度・・・「S:目標を大きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」